

心と心のかよいあう福祉の情報誌

HOTeye

ホットアイ

2020 Vol.103

地域とともにもに支え合う暮らし

- P1 **特集** 社会福祉事業所紹介
〓自分の子どもに自慢できる、
仕事と職場
社会福祉法人 親誠会「グループホームひまわり昭和町Ⅱ」
- P5 チャレンジ福祉の仕事
- P6 福祉専門職の紹介
社会福祉法人 親誠会「グループホームひまわり昭和町Ⅱ」
- P7 福祉人材センター情報
鳥取県福祉人材センターを利用しよう！

- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
虹の会(不登校や障害・ひきこもりの親の会)
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
地域を支える福祉ボランティア座談会 東部地区編
- P11 ことぶき高齢者情報
ねんりんピック 紀の国わかやま2019
- P12 ことぶき高齢者情報
「認知症と向き合いながら」「河原ふるさと塾」
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

社会福祉法人 親誠会 「グループホームひまわり昭和町Ⅱ」

倉吉市最大の複合文化施設「倉吉パークスクエア」の近くにある
鳥取県立厚生病院に隣接した「グループホームひまわり昭和町Ⅱ」は
住宅街にとけ込むような木造のたたずまいが、やさしい表情を見せています。
「我が家にいるような心地よい生活」をモットーに
利用者が“我が家としてくつろげる”ように努めながら
散歩や運動などで気分転換や精神的安定をうながしています。
また、地域住民の方々との交流をはかることは、
利用者への良い刺激となるうえ、認知症の理解にも一役買っています。

自宅ですていたことをできるだけ
ホームの中でしていただけるように



「自分の子どもにも自慢できる」仕事と職場



居室

生活できるというメリットがありません。一方居室は、個室を基本とするため、プライベートな空間も確保されています。

自分らしく 安らぎのある暮らしを

訪れた朝、約40mの廊下を、職員につき添われた利用者がりハビリ歩行していました。築2年ながら、すがすがしい木の香りの中を、毎日5往復以上、ときには10回も往復するということです。もちろん、天気の良い日には近所を散歩することで、みなさんがリフレッシュされているそうです。

グループホームは「認知症対応型共同生活介護施設」の別称で、地域密着型サービスのひとつです。5〜9名の少人数で共同生活をするのが特徴で、認知症の症状を緩和しながら、住みなれた地域で生活を続けることを目的としています。

「利用者がこれまで自宅で行っていたことを大切に、料理や掃除、洗濯



100mはある長い廊下を往復して健康づくりに役立っています

などを職員と一緒に

緒にできるように

しています。また、散

歩や外出（ドライブ）、

運動など、気分転換をはかり精神

面の安定にも努めています」と話す、

管理者（施設長）の生部治国さんは、

福祉職16年目のベテランです。介護

支援専門員・介護福祉士の資格を

持ち、利用者支援の「計画作成担当者」です。

グループホームひまわり昭和町Ⅱ

は入居定員9名のユニットが2つあ

り合わせて18名の利用者が暮らし

ています。家庭的な雰囲気の中で、

利用者一人ひとりが自分らしく安

らぎのある暮らしができるよう、専

門スタッフによる生活全般の介助を

行っています。また、地域密着型の支

援をすること、看取りなどのターミ

ナルケアにも対応していることも特

徴です。

社会資源を

有効に使う支える

グループホームには、医師や看護

社会福祉法人 親誠会
グループホーム
ひまわり昭和町Ⅱ
いきぶ はるくに
生部 治国
管理者

師の配置義務はありませんが、同法人のグループホームはすべて、関連医療法人の診療所と密な連携をとり、利用者の健康維持管理をこまやかに行っています。

各施設は、診療所の複数の医師や看護師と、業務用チャットツールなどのネットワークつながり、タブレット端末で簡単に連絡をとったり、情報を共有したりする「ひまわり包括ケアシステム」を形成しています。

それは、企業や病院、学校などの



ICTでの連絡を受け、早速に医師が訪問



居室での状況や健康状況を管理するとともに法人の医師との連絡に使用しているICTシステム

幅広い場面で利活用が広がっている「ICT(Information and Communication Technology)情報通信技術」という社会資源で、積極的に導入・活用して、コミュニケーションをはかる機会を増やすことで、利用者の安全やスタッフのサービス向上に努めています。

また、利用者のベッドには、マットレスの下にセンサーが設置されており、

ベッドに入っている入居者一人ひとりの心拍数呼吸数などのバイタルサインを、リアルタイムに確認・情報共有することができま

す。

「当施設はターミナルケアも行っており、医療と介護の密接な連携は重要だと考えています」と生部さんは話します。この日も、グループホームひまわり昭和町Ⅱのタブレット端末で、医師にメッセージを送ると、迅速に医師と看護師が訪れました。

人と人とのつながりを大切に

グループホームひまわり昭和町Ⅱでは、毎月1回第一月曜日に地域住民の方々の物作りや勉強会を通して交流をはかり、地域の方にも認知症に対する理解を深めていただけるよう取り組んでいます。

この日は、施設のご近所の奥様方10名が声を掛け合って集まり、利用者・介護スタッフを合わせて30人あまりで「ねずみリース」の飾り作りを行いました。奥様方に聞くと「ボランティアをするというよりは、皆さ



この日に作った「ねずみリース」飾り

月一回ある「ものづくり交流会」



人と一緒に楽しませてもらっています」と話します。

ケアマネジャーで職員のまとめ役でもある香川由香理さんは、地域交流の担当です。「地域の方にも積極的に関わっていただき、地域社会に開かれた施設になっています。また、地域の行事や保育園のイベントに利用者も参加することで、今までの自宅での生活とあまり切り離さないで、認知症の抑制にも役立てたいと考えています」と香川さん。

「近所の畑をお借りして、利用者による野菜の収穫も計画しています。「人と人のつながりを大切にして、もっと近所づきあいや交流を広げていきたいと思っています」と話します。



香川由香理さん

総合的な働きやすい 職場環境づくり

法人では、医師・看護師・介護士だけでなく、利用者・家族・ボランティアを含め、地域の人々とさまざまな

連携をした環境づくりをめざしています。それは利用者の方々に「その人らしい暮らし」を続けてもらうためであり、職員をはじめ、かわるすべての人のためでもあります。

「介護福祉の職場は、良いイメージばかり持たれているわけではありません。しかし福祉の仕事の喜びは利用者の『生きる希望と健康長寿』を支え、QOL（生活の質）を維持することにあります。ぜひ福祉の現場を自分の目で見て感じて、喜びの現場を実感して欲しい」と生部さんは話します。

そして「ここは、自分の子どもに見せたい仕事であり職場です」と話すように、小学校4年生と1年生、そして3歳の子どもを職場につれてきて、頑張っている父親像を見せることもあるそうです。

スタッフにも「子どもを連れてきていいよ」と呼びかけていて、職員が子どもを連れてくることもまれではありません。

産休・育休の取得率は



利用者と職員もそろって食事をとります

100%です。職場復帰のときのサポートも厚く、働きやすく仕事と私生活のバランスもとれているようです。

このような、自分の子どもにも自慢できる仕事、そして働きやすい職場は、まさに理想的な職場といえるのではないのでしょうか。

【概要】

- 所在地／鳥取県倉吉市東昭和町134番地
- 開設日／2017(平成29)年12月18日
- 運営主体／社会福祉法人 親誠会
- 職員数／常勤職員12名、非常勤職員4名
(管理者1名、ケアマネジャー3名、介護福祉士13名、介護職員2名、重複あり)
- 定員／18名(全室個室)
- 利用相談窓口／当該施設、運営主体



Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人 親誠会
グループホームひまわり昭和町II

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

「笑顔でもって笑顔をつくる」その笑顔に尽きる

介護福祉士 竹部 みち代さん



福祉専門学校で社会福祉主事の資格を取得した竹部みち代さんは、卒業後、歯科医の看護助手として勤めました。その後、福祉の仕事への夢をかなえるため、介護施設で働きながら介護福祉士の資格を取得し、福祉職場についておよそ15年になるベテランです。

「介護は人の生命にもかかわりま
すから、決して簡単な仕事ではありません。しかし、利用者の笑顔は本当に素晴らしいものです。その笑顔に助けられ、そして自分自身が癒されます」と、竹部さんは笑顔を見せます。

「いつもありがとう」と利用者が見せる笑顔に、竹部さん自身も笑顔がこぼれます。この仕事は「笑顔でもって



て笑顔をつくる」、その笑顔に「きますと、キャリアから導かれた言葉には自信がうかがえます。また「利用者の方が人生の先輩たちで、教えてもらうことがとても多く、やり甲斐のある仕事です」とも話します。

竹部さんは、利用者の想いをくみ取ることや、して欲しいことを察してあげられる、気づきを大切にしています。そして、利用者のそれまでの人生経験を生かした、その人らしい暮らしができるように心掛けています。

そんなことからでしょうか、利用者から、「助け神さんだね」と言われることがあるそうです。共に生活をすることで、私ができることをお手伝いしながら、地域交流の機会を持つたり、人と人とのつながりを大切にしながら、「我が家」と思える生活をめざしています。

「グループホームひまわりは、みんなの自然な笑顔にあふれ、たがいに尊重しあえる環境で、楽しい職場です」と話す竹部さんは、自身の祖母を家族で介護していたときを思い出しながら、利用者への想いにつなげています。

高校卒業を前にして、進路を決められなかった楠本弥津貴さんは、学校の先生から、福祉職への道をアドバイスしてもらい、「人の助けになりたい」という想いが込み上げてきました。そして、子どもの頃「入院生活が長いおばあちゃんの助けになれたら」と思っていたことを思い出したと話します。

卒業後、介護福祉士の資格を取得し、福祉施設に勤務して経験を積んだ後、「グループホームひまわり昭和町II」に1昨年勤務しています。いまでは、「おばあちゃんから学んだことが生かせる福祉職に、いつまでも携わってきたい」と心に決めています。

仕事での困りごとは、入居者の体調に変化が見られるときの対応でした。しかし職場では、使いやすいICTシステムが導入され、タブレット端末で担当医師とのやりとりができます。「記録も残るので職員同士の情報共有も簡単で、より良い対応ができて安心です」と楠本さんは話します。

また、入居者の方に、家に帰りたいと言われることもよくあるようで、「どうしたら安心してもらえるのか、利用者の想いのくみ取り方や、希望に沿ってあげられないときには悩みますが、



職場の雰囲気先輩に相談しやすい、話しやすい雰囲気なので解決しやすいです」と楠本さんは笑顔を見せます。

利用者の笑顔が見えたり、相談を受けたり、「顔を見られるだけでうれしい」「信頼しとるけえ」と、優しい言葉をかけられることに、楠本さんは何ともしえない喜びを感じ、やり甲斐を感じながら仕事に向き合っています。「介護福祉施設は、毎日おじいちゃん、おばあちゃんの笑顔に会えます」と。

また「体験してみないと福祉職場の喜びはわかりません」。一度体験してみてください。楠本さんは呼びかけます。

一度、福祉職場を体験してみてください

介護福祉士 楠本 弥津貴さん

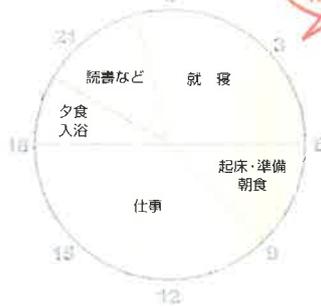


福祉専門職の紹介 介護福祉士

利用者さんの人生に寄り添えるという魅力



ある一日の
Work Style



社会福祉法人 親誠会「グループホームひまわり昭和町II」

介護福祉士 仙北谷 翔さん

介護福祉士の仕事は、介護が必要なお年寄りや障がいのある人に対して、快適な日常生活が送れるように、食事や入浴をはじめとした生活の手助けをする仕事です。さらには、家族やヘルパーなどの介護者からの相談に応じるなど、介護者の精神面の



支えになったり、指導やアドバイスをしたりすることも求められます。また、介護福祉士は国家資格で、介護の専門知識や技術を伝える、現場のリーダー的存在で、ケアワーカーとも呼ばれています。

介護福祉士の仕事のやり甲斐や魅力はどこにありますか？

お年寄りの身体機能を活かしながら、自立した生活ができるよう、生活の中でむずかしい部分を補うお手伝

いをしています。この仕事の魅力は、

その方の人生に寄り添えることだと思えます。それぞれの方々が持つ能力を活かすためにはどのようなかわり方がいいのか。また、その方や家族はどのような想いでいるのか。これらを理解することはとてもむずかしいことですが、それが少しでもかなえられたときの笑顔と、「ありがとう」「あんたがおつてよかった」という言葉に、やり甲斐を感じています。

どんな時に「この仕事についてよかった」と思いますか？

幼い頃から抱いていた、「困っている人の役に立てる仕事がしたい」という想いから、この仕事に就いて15年になります。しかし実際には、そんなに単純なことではありません。自分のしていることが、その方にとって、余計なお世話になっていることもあるかもしれません。悩みもありますが、利用者の想いに寄り添えたときには、この仕事を続けてきてよかったと実感します。利用者の方々は、人生の大先輩です。私たちとしてもさまざまなことを学べる機会になるので、自分自身の成長につながる実感があります。そんなところもこの

仕事の良いところだと思います。

仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

どんなに大変なときであっても、笑顔を絶やさず利用者が話しかけやすいように意識をしています。それは利用者の笑顔を生むためでもあります。また、介護は一人でするものではありません。かわる職員同士の意思疎通や、介助の成功例失敗例などのエピソードの共有を大切にして、チームとして利用者に関わることも大切になっています。

休日は何をして過ごしていますか？

妻と二人暮らしなので、自由な時間が持てるよう、おたがいの時間を大切にしながら過ごしています。自分の時間には、趣味の釣りに行ったり、読書やDVD鑑賞をしたりしています。釣りをしているときは、時間を忘れて、よいリフレッシュになっています。平日の夜は、好きなミステリー小説を読んでいます。

鳥取県福祉人材センターを利用しよう!

鳥取県福祉人材センターでは、福祉の職場や仕事についての質問にお答えしています。
例えばこんなときは当センターをご利用ください。



- 福祉の仕事のニーズ動向や将来性について知りたい
- 福祉に興味があり、福祉の職種、活躍の場、仕事内容について知りたい
- 取得を目指したい福祉の資格があり、資格の取得方法について知りたい

「介護福祉士」の動向

●今後ますます必要とされる専門職です

「チャレンジ福祉の仕事」でご紹介した介護福祉士は、近年の高齢化に伴う福祉ニーズの拡大等に伴い、2025年には245万人(※)の介護人材が必要となること想定されています。また、鳥取県の要介護認定者数は2012(平成24)年から2025年(令和5年)までに1.24倍になると予想されており、現在と同程度の配置のもとに介護を行うとすれば、さらに2,423人の介護職員が必要と試算されています。今後ますます必要とされ、将来性のある仕事と言えます。

※第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数:2018厚生労働省

●今後の動向

これまで介護福祉士は離職率の高さや将来展望(キャリアパス)が見えづらいなどの課題が指摘されてきましたが、国は2025年に向け介護人材の構造転換を以下のとおり進めており、安心して長く働くことのできる環境が構築されつつあります。また、賃金については平成21年から29年の間に5万7千円の改善を実施し、他産業と遜色ない水準へ今後も更なる改善を目指しています。

参入促進	1.すそ野を広げる	人材のすそ野の拡大を進め、多様な人材の参入促進を図る
労働環境・処遇の改善	2.道を作る	本人の能力や役割分担に応じたキャリアパスを構築する
	3.長く歩み続ける	いったん介護の仕事についた者の定着促進を図る
資質の向上	4.山を高くする	専門性の明確化高度化で、継続的な質の向上を促す
	5.標高を定める	限られた人材を有効活用するため、機能分化を進める

出典:社会保障審議会福祉部会(福祉人材確保専門委員会)2015厚生労働省

●介護職員の平均賃金

全体/資格あり	平成29年4月時点	平均勤続年数
介護職員全体	293,450円	7.3年
介護福祉士の資格あり	307,100円	8.2年

出典:賃金構造基本統計調査
2017厚生労働省

●介護福祉士の資格取得ルートの一例



※資格取得の一部のルートをご紹介します。詳細はお問合せください。

※介護福祉士の資格取得の特例として、平成29年度から令和3年度までの間に介護福祉士の養成校を卒業したのものについては、当該卒業した日の属する年度の翌年度の4月1日からの5年間、介護福祉士となる資格を有するものとします。

お問い合わせ / 社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会 鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)

とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

虹の会 (不登校や障害・ひきこもりの親の会)

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。

その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

[ホームページ] <http://www.torivc.jp/>



左から、虹の会の世話人代表の遠藤明子さん、鳥取県不登校の親の会ネットワークの東谷裕昭さん

みんなが笑顔になるように「つながり、支え合う」

去る12月の日曜日、「不登校のスヌメ」の上映会とお話会がありました。この映画は不登校経験のある10代の3人が制作した短編映画です。学校に行けなくなった時の葛藤や、周りからの何気ない言葉に傷つきながらも自分と向き合い、少しずつ元気を取り戻して行く主人公の姿がリアルに描かれています。

主催したのは、琴浦町で活動する「虹の会(不登校や障害、ひきこもりの親の会)」です。毎月定例会を開き、経験者やその保護者、理解者と悩みや想いを語り合い、情報共有をしています。その他、理解啓発のためのイベントや研修会を適宜開いています。

「まずは、親自身の心の安定が大事です」と、虹の会の世話人代表で、優しさがあふれる笑顔が印象的な遠藤明子さんは話します。そして「定例会では同じ悩みを持つ人や経験者と話ができます。

気持ちを受け入れてもらえることで気持ち楽になり、気付かなかった我が子の成長や良い面に目を向けられるようになります。そして心の整理ができるようになります。少しづつ前向きな想いが芽生え、不思議と子どもにも笑顔が生まれます。すると、家の中が明るくなり、お互いの心が安定してきます。」と実体験を交えて親の会に救われたことを振り返ります。

このように虹の会は、一人ひとりが無理をしないで、抱えている不安や焦りをお互いに受け止め、支えあい、そして共に考えて学びあう場です。親自身が安定し、心のゆとりを取り戻して、みんなが笑顔になれる会を目指しています。

いま、このような不登校やひきこもり等の状態にある人たちとその親を支える会は、鳥取市に2つ、倉吉市に1つ、琴浦町に1つ、大山町に1つ、米子市に2つ、合わせて7グループがあります。そして一昨年、各会の代表が集まって「鳥取県不登校の親の会ネットワーク」を結成しました。その中で実行委員会を立ち上げて「不登校を考へる鳥取県民の集い」や「行政との意見交換会」を開催し、不登校の現状や課題を話し合い、多様な学びの場の情報提供や理解啓発の為に活動を積極的に進めています。

虹の会の発起人メンバーでネットワーク代表でもある東谷裕昭さんは「不登校やひきこもりが社会問題となっています



制作者によるトークショーの様子

が、私たちの会の取り組みは、まだまだ知られていません」と話します。そして「不登校やひきこもりは問題なのでしょか。普通だとされる社会の枠から外れてしまうことは悪ですか？本人の興味のある事や好きな事を思いっきりさせて、それを親子で楽しむことからスタートすれば、その過程で自然と学ぶことができます、社会参加もできるようなものではないでしょうか」と投げかけます。

「どうか一人で悩まないで、ここに来ればすべてが解決する訳ではないけれど、あなたの気持ちを理解してくれる人がいます。たくさんの人とつながり、知恵をもらって笑顔を取り戻して欲しい。ぜひ、近くの会に足を運んでみてくださーい」と、東谷さんも遠藤さんもそう呼び掛けます。

「問合せ先」

虹の会(不登校や障害・ひきこもりの親の会)
nijinokai716@gmail.com(英訳)
nijinokai716@gmail.com(英訳)

鳥取県不登校の親の会ネットワーク
TEL:090-6869-16007(東谷)

地域を支える福祉ボランティア座談会

東部地区編（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町）

きつかけづくり ～出合いの場として～

今年度、本誌面で企画した「地域を支える福祉ボランティア座談会」東部地区編を一月24日鳥取市障がい者福祉センターさわやか会館において開催しました。

座談会の目的は、生活圏域の近い隣り町で活動するボランティア団体同士の交流と、活動を通じて感じていることや課題等をお話いただくことで、新たなつながりづくり、課題解決、アイディアの共有等を社協ボランティアセンターとともに考えることです。



座談会全体の様子

参加者の皆さんはそれぞれ多種多様な活動をされており、お互いの活動や日々の思いを語り合っていたできました。

今回は、東部地区のボランティア団体の代表やボランティアの皆さん6人と各市町の社協ボランティアセンター担当職員5人をあわせました11人の方々に集まっていたいただきました。

高齢化問題から 見えてきたもの

最初に西部・中部で開催した座談会で出た共通の課題「ボランティアの高齢化問題」を取り上げることになりました。他の地区と同様に東部地区でもボランティアのみならず地域の過疎化は深刻です。

鳥取市内を中心に活動する点訳・音訳のボランティア「桑の実会」では、仕事を辞めてからボランティア活動を始められる方が多く、必然と高齢化が進んでいるそうです。研修会を開催して仲間を増やす取り組みをしても、「困っている人」がどこにいても情報が得られない。活動の場を広げようにも個人情報保護という壁に阻まれ、点訳や音訳を必要としている方の情報が得られないという問題を抱えていると話されました。

一助から始まる 心の変化を感じて

八頭町で活動する「やず手話の会」は、聴覚障がい者が日常で困っていることの手助けに少しでもなれるよう寄りそっていく事を大切に活動が続いていると話されました。ある聴覚障がいの方が「何かしたいのに伝わらない、理解してもらえない」という理由でどうしても地域に溶け込めないと悩んでいたそうです。しかし、自分たちのちょっとした手助けで、その方が地域の中へ踏み出そうとする前向きな心の変化を感じ、そのことが活動の励みになっているというエピソードを話されました。参加者は自分達たちの活動が、困っている方の一助となっている、ということを再認識し、これからも頑張つて活動を続けようと共感されました。

地域活動への元気の源

高齢化の問題に向き合い、やりがい・励みを持つことで乗り越えようとする団体の取り組みがありました。智頭町には6地区に給食ボランティア団体があります。「いすみ会」は那岐地区で給食ボランティアを、



座談会全体の様子

「いすみ会」は町社協が実施するひまわり会という町内で70歳以上の一人暮らしの方が集まる機会に昼食を提供する活動を続けています。活動を支えているボランティアは高齢者が中心ですが、ボランティア活動を10年間続けてきた方を対象に町社協から年に一度、表彰が行われています。町全体で長年続けてきた活動の功労を応援することで、こんなに年を重ねても役に立っているという事が嬉しい」とボランティアの方の活動の源となっています。そして、「まだまだ頑張らない」と活動へのモチベーションが上ががり、地域の活動に参加できることの喜びを感じる取り組みにもなっています。地域で高齢化を受け入れ、長年の経験が励みとなるよう工夫されています。



鳥取県ボラセン
キャラクター
「はーちゃん」

座談会の終わりに各団体からの社協ボランティアセンターへの要望をお聞きしました。若桜町の傾聴ボランティア「ごごみ」の代表からは毎月、デイサービスを訪れて傾聴活動を行

これまでの地区座談会を ふりかえって

次に岩美町の「岩美子ども食堂」は、地域の子どもたちや保護者に、みんなで一緒に夕食をとりにする機会の提供や、母親同士の交流が深まることを願い、「ほっとする居場所」を「コンセプト」に毎月2回開催しています。

参加する子どもたちはとにかく元気一杯で、母親同士でそんな子どもたちの見守りが一緒にでき、共通の話題で話し合える場として、リーダーが増えています。また地域の方から食材の提供もあり、地域全体で子どもたちや子育て世代を支え合おうというあたたかい思いと共に活動を続けていると話していただきました。また、若桜町「すずらんの会」は、町社協のサロンふれあいの里で一人暮らしの高齢者と子どもたちがふれあう交流活動を行っています。ここに参加する母親同士が繋がり、ボランティアに興味を持ってもらえるようになって欲しいと願う気持ちをお話されました。

今回参加いただいた団体と参加者の方々

登録ボランティア団体名		参加者名	活動の主な概要
鳥取市	桑の実会	畑山 真砂子さん	視聴覚障がいのある方への点訳・音訳
岩美町	岩美子ども食堂	西浦 公子さん	地域の子どもたちや保護者にほっとする居場所を提供している
若桜町	すずらんの会	三島 玉恵さん	小地域サロンの補助
	傾聴ボランティアごごみ		月に一度、社協のデイサービスを訪れ、傾聴活動を行っている
智頭町	コスモス会	寺坂 敏子さん	町内70歳以上の一人暮らしの方が集まる会「ひまわり会」の給食ボランティア
	那岐地区いずみ会	国政 孝子さん	那岐地区の70歳以上の一人暮らしの方への給食ボランティア
八頭町	やず手話の会	平家 由紀美さん	当事者が参加される様々な行事に簡単な手話を使いながら活動を行っている

社協	鳥取市 上野 正樹さん	智頭町 正美 健さん
	岩美町 内田 雅之さん	八頭町 山根 毅大さん
	若桜町 小倉 崇弘さん	



座談会にお集まりいただいた皆様
前列左から国政さん、平家さん、畑山さん、寺坂さん、三島さん、西浦さん
後段左から上野さん、山根さん、山根さん、正美さん、小倉さん、内田さん

行っている。活動を通じて高齢者の傾聴には重要性を感じている。ただ傾聴ボランティアをするには経験と知識も必要不可欠。知識を深めるためにも社協で傾聴の研修会を開催して欲しいとの要望がありました。

また社協担当者からは、座談会を通じてボランティア団体間の交流の必要性を感じた。活動分野の違う団体同士であっても、地域の課題について話し合うことから問題解決のヒントを共有することができる。

もっと現場の生の声に耳を傾けるなど、団体間の横の広がりへと繋げていくよう、今後も協力していきたいとの声がありました。これから社協としてボランティア団体とどう関わっていくのか改めて考えさせられる機会となりました。

今年度、座談会を開催して、地域のボランティア活動の様々な課題に向き合い、各社協ボランティアセンター担当者とボランティア団体の皆さんと一緒に課題解決に向けたア

イデアの共有が出来ました。ボランティア活動はもとより、地域の支え合い活動への期待は高まっています。今後も社協のボランティアセンターはボランティアの皆さんの想いや活動に寄り添い、誰もが安心して暮らせるまちを目指して一緒に汗をかいていきます。最後に座談会に参加していただいた各団体の皆様の益々のご活躍を願うとともに、厚くお礼申し上げます。

ねんりんピック 紀の国わかやま2019

11月9日(土)から12日(火)にかけて、第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019)が開催されました。全国健康福祉祭とは、ねんりんピックの愛称で親しまれる60歳以上の方々を中心とした健康と福祉の祭典。今年度鳥取県からは20種目136名の選手・監督が参加し、スポーツと文化の交流大会で全国の選手と交流を深めました。



ねんりんピックの賞状とメダルを持った杉原さん

ねんりんピックの種目の一つに「健康マージャン」があります。

健康マージャンとは「(お金を)賭けない」「(酒を)飲まない」「(たばこを)吸わない」をモットーとした麻雀のこと。脳を使い、手先を使い、人と会話することで認知症予防にもなると言われ、全国的な広がりを見せています。鳥取県内でも公民館などで教室や同好会活動が盛んに行わ

健康麻将の会

杉原さんをお訪ねしたのは、倉吉市の成徳公民館。ここでは毎週水曜日と金曜日に「健康麻将の会」が開かれています。この会は代表を務める荒木さんが7年前、成徳公民館の館報で健康マージャンの会の参加者を募ったことから始まり、現在会員は25人、毎回20人ほどが集まり13時から17時まで麻雀卓を囲みます。

れ、健康マージャンを楽しむ方が増えています。健康マージャンのねんりんピック選手派遣は平成30年度から始まり、今年度で2回目となります。御坊市で開催された今大会で、個人戦、ブロック2位の好成績を収められた倉吉市の杉原圓さん(81)にお話を伺いました。



健康麻将の会の様子

杉原さんも以前から都市部などで健康マージャンが盛んなことを知っており、ぜひ倉吉市でもやってみようと思いつきに加わったのが健康マージャンを始めたきっかけでした。

健康マージャンは男性が参加しやすく、閉じこもりなどの予防にも有効と言われています。杉原さんも「健康マージャンを続けているおかげで、家に引きこもることもなく仲間と集まってわいわい楽しめている」と話されます。頭と指先を使い仲間と楽しく会話できる健康マージャンは杉原さんの元気の源でもあるようです。

ねんりんピックに参加して

今回、ねんりんピック初参加でブロック(68人中)2位という快挙を成し遂げた杉原さん。「初日の団体戦から調子がよくて、個人戦でも力を出し切ることができた。ねんりんピックに参加して、全国の方と交流することができとても楽しかった。」と、大会を楽しみ、普段通りに試合に臨めたことが良かったようです。健康マージャンを始めて7年、今では生きがいだと語る杉原さん。今後の目標を尋ねると、「ねんりんピックの選手選考会として開催さ

れる『因伯シルバー大会』にはこれからもずっと参加したいね。ねんりんピックには…上位の成績がとれたらね」と素敵な笑顔を見せてくださいました。



ねんりんピック会場にて(右から2番目が杉原さん)

ねんりんピックは昭和63年の第1回兵庫大会以来毎年開催されており、来年度は岐阜県で開催されます。また、令和5年度には鳥取大会の開催が決定しており、来年度からは基本構想の策定など本格的な大会準備が始まります。

*和歌山大会の結果はホームページでご覧になれます。

鳥取ことぶきネット

検索

認知症と向き合いながら



吉田寛美さん

鳥取市立川町にお住まいの吉田寛美さんは、持病に悩まされ、医療関係の方々に大変お世話になり支えられたそうです。その気持ちをいつまでも忘れないで感謝し、自分のできる範囲内でボランティア活動を続けてこられました。

吉田さんは植物が大好きで地域に花いっぱい公園を作られたり、全国緑化フェアで公園ガイドをされたり、町内の役員やいろいろな分野の委員をされ社会に貢献して活動をしておられました。6年前に花の種類や人の名前が言えなくなり、おかしいと思いつつ受診したところ認知症を発症していることがわかりました。それからでは進行を遅らせるために、指圧・氣功の資格を取得し、実行するなどいろいろなことにチャレンジして日々努力しています。私も(*)オレンジカフェを訪問し、吉田さんが楽しく仲間指圧を教えている情景を拝見し、習得したものを少しでも認知

症予防に役立てていただきたいと、人とのふれあいを大切に交流している様子になりました。

私達のデイケアにも講師としてお招きし、体験談を語っていただき指圧も指導していただきました。認知症と思えぬくらい流ちょうな語り口で、大変役にたつたと好評でした。

吉田さんの、身体的なものから教養的なものまで、どんな欲に楽しく取り組まれている姿勢は、高齢者の老化予防にもつながるよう思っています。自分自身の現状を自覚して、人の役に立ちたい気持ちをいつまでも持ち続ける吉田さんのボランティア精神に敬意を表します。

取材を終えて一言



高齢だろっが、どんな境遇に直面しようが夢をもって目標に精進して楽しんで生きる事の大切さを教えられた取材でした。



県内の素敵な高齢者が同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。

河崎ふるさと塾



赤井寛之さん

と塾」についてお話を伺いました。

赤井さんは昭和24年に文化部長の役職を任命され、今日まで文化部長事業計画を企画・構成して来られました。河崎ふるさと塾は4月に開校式でスタートし、年に10回の講座・現地学習を行い、12月の閉講式と茶話会を終了します。翌年1月から3月までは受講者のアンケートを中心に討議し、年間計画を立てます。

米子市河崎公民館の文化部長、河崎老人会連合会長、河崎花笠おどりのメンバー、そして、御建地区の副自治会長等幅広く活躍しておられる赤井寛之さんに、公民館活動の「河崎ふるさと

岡山の牛窓オーブ園と牛窓町の街並みを散策しました。帰りのバスの中では、公民館職員が作成した歌詞のしおりを配り全員でコーラス。気づけば車窓に米子の景色が見えたほど、楽しいバスの旅となりました。

講座部門の「人権講座」では、「ドキュメンタリー制作者が語る「クラウディアからの手紙」と題し、元日本海テレビプロデューサーの古川重樹氏にお話しいただきました。その他にも「国際理解講座」「家庭教育講座」「健康講座」「歴史講座」「教養講座」「介護予防講座」「音楽講座」があり、全ての講座の会場が満員になります。「会員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです」と赤井さんは言われます。赤井さん自身も河崎ふるさと塾で学び、一緒に楽しみながらふれあいを深めることが出来たそうです。私も各講座に参加しています。人生常に勉強して何かに役立つことを願いつつ毎日を通していきます。

取材を終えて一言



ボランティア活動各種役員等何をやるにしても実行すればおのずから交流が深まる事を教わりました。

(*)オレンジカフェとは認知症の人や家族、地域の方などが集まり情報交換や交流を楽しむ場所

福祉の就職・転職フェアとっとり2020夏 開催決定!

学生さんからシニアの方まで!福祉の仕事で働きたい人集まれ!

福祉の職場に就職・転職を希望する学生・社会人の方と、県内で福祉事業所を運営する法人が集まって採用や業務内容に関する情報交換ができる合同説明会を開催します。福祉のしごとに興味がある方、未経験の方もサポートしますので、ぜひご参加ください。

■対象職種

介護職、保育士、相談職、生活支援員、看護職、栄養士、調理員、理学療法士、作業療法士など

■対象施設

高齢者施設、障がい者施設、保育所、児童養護施設など

参加は一般・学生を問わず歓迎します。
事業所の話を聞きにぜひおいでください!

〈東・中部会場〉

令和2年 **5月17日(日)** 13:30~16:00
ホテルモナーク鳥取 仁風の間
(鳥取市永楽温泉町403)

〈西部会場〉

令和2年 **5月30日(土)** 13:15~16:00
米子コンベンションセンター 国際会議室
(米子市末広町294)

●お問い合わせ 福祉人材部 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和2年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術 保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	
	通院保険金日額	4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷	×	○
賠償責任	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
	年間保険料	350円	500円

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

〈基本プランに加入される方へ〉

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者

社会福祉法人 **全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店

株式会社 **福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

第30回(令和2年度)因伯シルバー大会 出場者募集

スポーツや文化活動を通して、鳥取県内の高齢者同士の交流の輪を広め、健康と仲間づくり、生きがいづくりを促進するために、因伯シルバー大会を開催します。なお、本大会は令和2年11月に岐阜県で開催される第33回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2020)の派遣選手の選考会を兼ねています。

■応募資格

鳥取県に在住する60歳以上の方
(昭和36年4月1日以前生まれの方)

■参加料

無料(ただし、ゴルフは参加料2,000円
及びプレー代が必要)

■応募方法

所定の参加申込用紙に必要事項を記入し、FAX又は郵便で申してください。
申込用紙は、県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会、公民館等に設置しています。

■募集締切

令和2年4月20日(月)

日 程	種 目	会 場
5月9日(土)	卓 球	どらドラパーク米子 市民体育館
	テ ニ ス	どらドラパーク米子 庭球場
	ソ フ ト テ ニ ス	どらドラパーク米子 庭球場
5月10日(日)	ソ フ ト ボ ール	どらドラパーク米子 スポーツ広場
	ゲ ー ト ボ ール	米子市宮淀江スポーツ広場
	将 棋	米子ふれあいの里
5月11日(月)	グラウンド・ゴルフ	チュウブYAJINスタジアム 養和会YAJINフィールド
5月16日(土)	ペ タ ン ク	美保公園多目的広場
	弓 道	どらドラパーク米子 弓道場
5月17日(日)	囲 碁	米子囲碁会館
5月23日(土)	健 康 マ ー ジ ャ ン	境港市余子公民館
5月27日(水)	ゴ ル フ	旭国際浜村温泉ゴルフ倶楽部

●お問い合わせ 地域福祉部 因伯シルバー大会事務局 TEL(0857)59-6332

※日程、会場は変更になる場合があります。

介護助手募集!! 60歳～75歳くらいの方、未経験者大歓迎!! 住み慣れた地域で『介護助手』として働いてみませんか

●短時間勤務 ●週2日からでもOK! ※就労条件は、各施設で異なります。

今後、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により、高齢者施設等で介護を担う人材が不足していくことから、介護人材の確保は、団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向け、喫緊かつ社会的要請の強い課題です。介護・生活支援に携わる人材を社会全体として確保する取組を進めていかなければいけません。介護助手の取組は、こうした社会的要請にこたえる取組の一つとして全国的に広がりを見せ、元気な高齢者の方々の活躍が期待されています。

★介護助手の仕事の内容

介護助手とは、シニア世代の新しい働き方です。高齢者施設で、部屋の掃除や食事の配膳・片付け、ベッドメイク、趣味活動の手伝い、話し相手など、介護の補助的な仕事を担っていただくものです。

介護の仕事や医療福祉分野の仕事に従事されたことのない方でも可能です。

地域社会への貢献になり、また、働きながら介護を学び、ご自身の健康維持、介護予防にもつながります。

[介護助手として働く方々の声]



68歳男性

福祉職場での経験はありませんが、自分にもできることがあるのではないかと応募しました。午前中だけの勤務で、朝食の配膳や下膳、居室整理、ベッドメイキング、洗い物などを行っています。はじめは戸惑うことも多かったのですが、職員の方が丁寧に教えてくださり、今ではすっかりベテランスタッフです。



64歳女性

定年前は、葬儀社に勤めていました。経験は無いですが、人の役に立てたらと思い働くこととしました。最初は戸惑うこともありましたが、利用者さんとの交流を通じて学ばせていただくことも多いなと感じています。食事の準備などの仕事もありますが、培ってきた家事が役に立つことがとても嬉しいし、楽しいです。

●お問い合わせ 福祉人材部 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

HOTeyeギャラリー



©アートスペースカラフル
※無断転用を禁じます。

シリーズ なかまたち 2013年制作 横造紙/ポスターカラー

とても物静かで、黙々と制作をされます。会話は好きでないのかあまりされませんが、親指を立ててイイネ!と伝えると抜群の笑顔で返してこられます。何年も続いている丸い顔が沢山並んだ作品は少しずつマイナーチェンジしながら今の表現に至っています。どんな画材を渡しても、いつもの顔を描いてくれます。今までにキーホルダー、キャンパス、アクリル板、紙皿、ビニール傘、または90×90cmの板など素材も大きさも様々なものをお願いしていますが、嫌がることなくいつもの通りにかわいい顔を描いてくれます。今では市民美術展企画部門の常連となりました。

杉山 将大

2015 第54回市展 企画展入選
2016 第55回市展 企画展入選
2017 第56回市展 企画展入選
2018 第57回市展 企画展入選

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <http://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の
求人・求職
の窓口です

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の
幅を広げる
活動を応援します

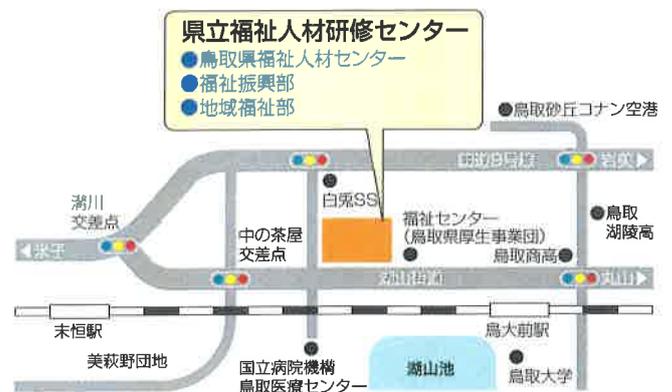
ボランティア・活動支援担当

ボランティア担当 TEL.0857-59-6336
福祉・教育担当 TEL.0857-59-6344
FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

元気な高齢者の
生きがい・社会貢献
を支援します

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <http://www.tottori-wel.or.jp/p/chiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

